

# 2007年3月中間期 決算発表

2006年12月4日

**東洋合成工業株式会社**

## ■ 目次

1. 2007年3月中間期 決算概要 P3~17
2. 2007年3月期 通期見通し P18~25
3. 各事業の今後の展望 P26~33

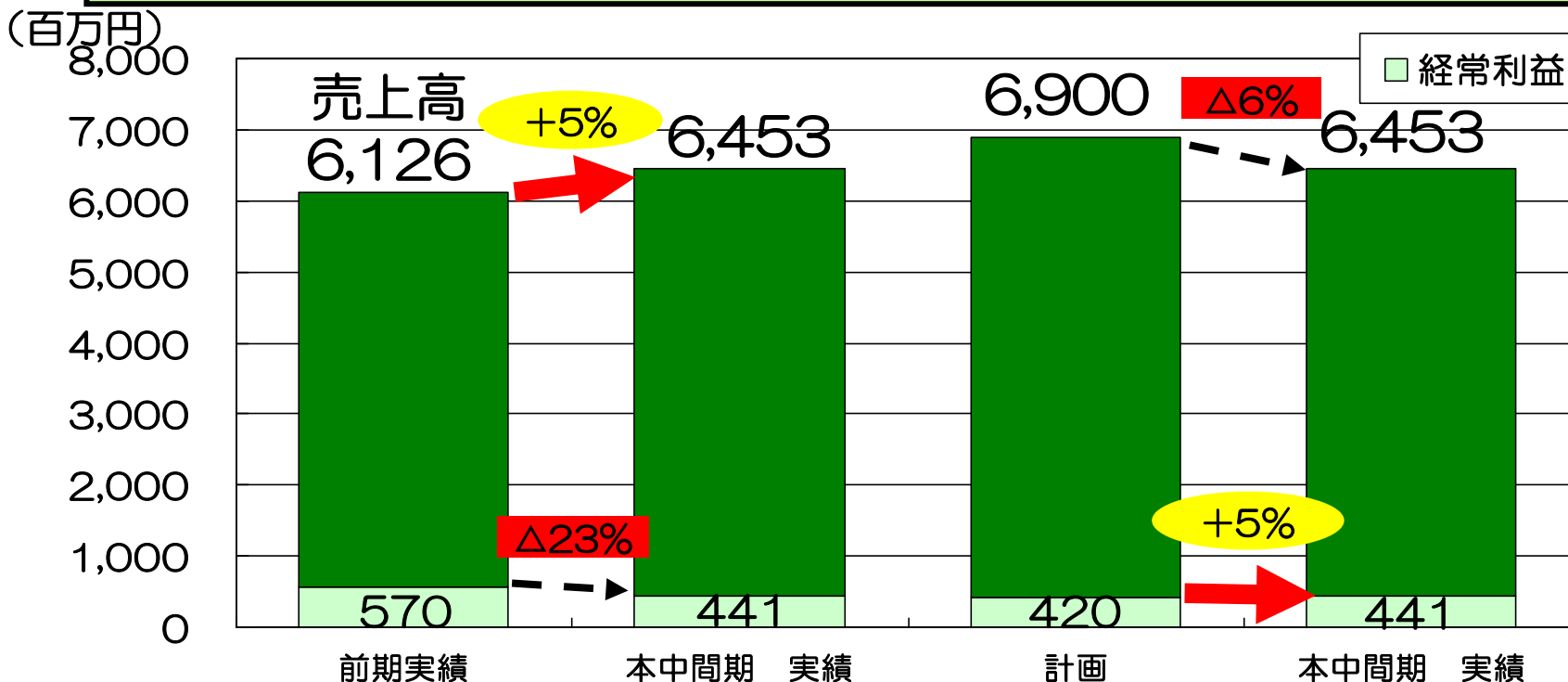
# 1. 2007年3月中間期 決算概要

## ■ 2007年3月中間期 決算のポイント

- ・ 売上高は、前年比5%増、計画比6%未達の  
64億5300万円
  - ・ 液晶向け感光材の在庫調整
  - ・ 化成品事業（溶剤リサイクル、香料）の成長
- ・ 経常利益は、前年比23%減、計画比5%超過  
の4億4100万円
  - ・ 減価償却費増加、原油高による原材料・燃料費高
  - ・ 原油高によるリサイクル需要のキャッチアップ

# 2007年3月中間期のポイント

- ・ 売上高は、前年比5%増、計画比6%未達
  - ・ 化成品事業（溶剤リサイクル、香料）の成長
  - ・ 前期末～第1Q、液晶市場の在庫調整の影響
- ・ 経常利益は、前年比23%減、計画比5%超過
  - ・ 減価償却費増加に加え、原油高による原材料費・燃料費等の増加
  - ・ 原油高による溶剤リサイクル需要のキャッチアップ



# ■ 全社 2007年3月中間期 決算概要

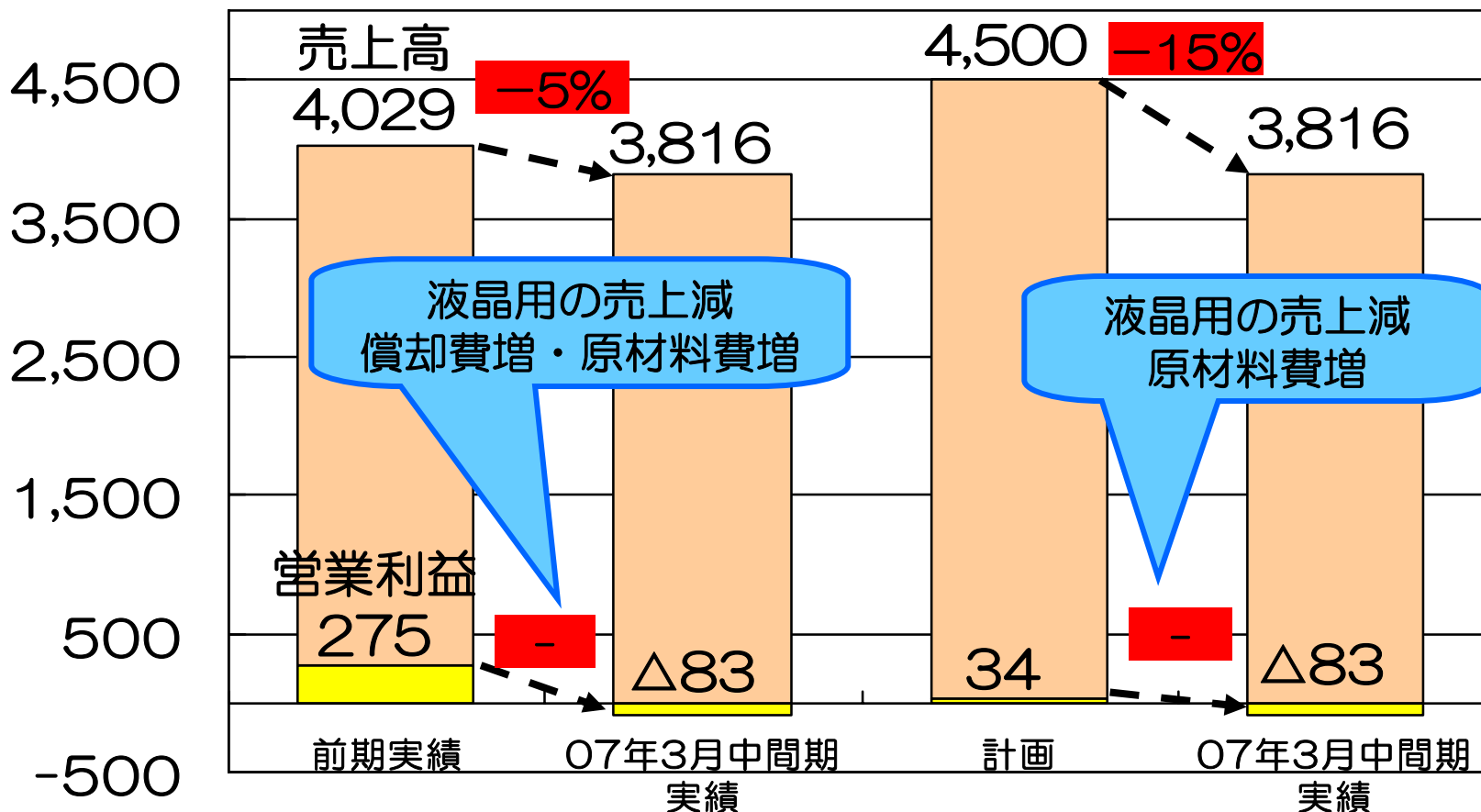
科目 (百万円)	2006年 3月中間期 実績	2007年 3月中間期 実績	対前年		計画	差異
			増減	%		
売上高	6,126	<u>6,453</u>	<b>+326</b>	+ 5%	6,900	<b>△447</b>
感光性材料	4,029	3,816	<b>△213</b>	<b>△ 5%</b>	4,500	<b>△684</b>
化成品	1,287	1,871	<b>+584</b>	<b>+45%</b>	1,600	<b>+271</b>
ロジスティック	809	765	△ 44	△ 5%	800	△ 35
営業利益	658	<u>443</u>	△215	△33%	450	△ 7
感光性材料	275	△ 83	<b>△358</b>	<b>△130%</b>	34	<b>△117</b>
化成品	108	259	<b>+151</b>	<b>+40%</b>	194	<b>+65</b>
ロジスティック	274	267	△ 7	△ 3%	222	+45
経常利益	570	<u>441</u>	△129	△23%	420	+21
中間純利益	354	<u>282</u>	<b>△72</b>	△20%	240	<b>+42</b>

# ■感光性材料事業 売上高・営業利益

- ・ 売上は、前年比5%、計画比15%減収。LCDパネルの在庫調整の影響。
- ・ 利益は、売上高減少と償却費、原材料・燃料費の増加で減益。

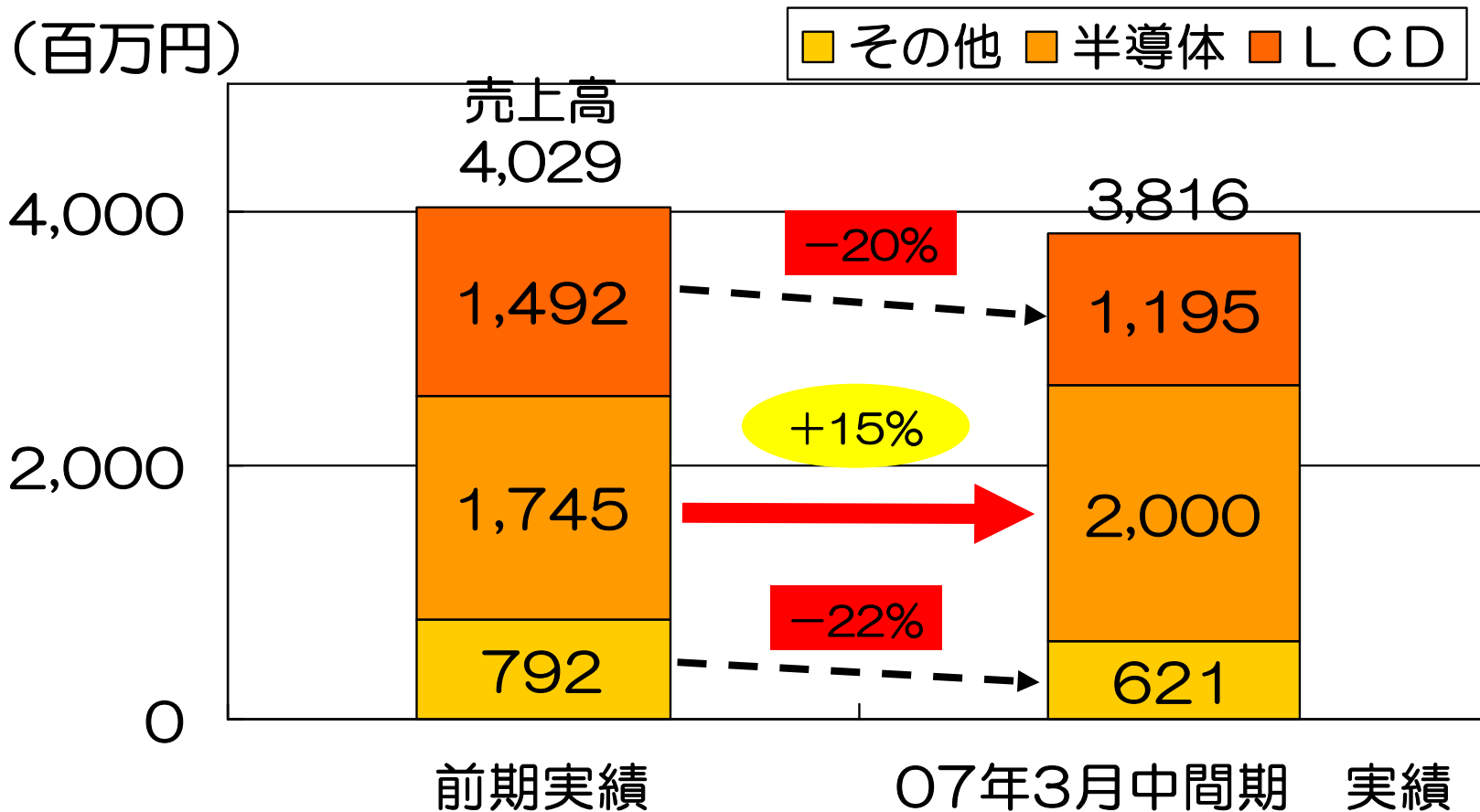
(百万円)

■ 営業利益



# ■感光性材料事業 用途別売上高

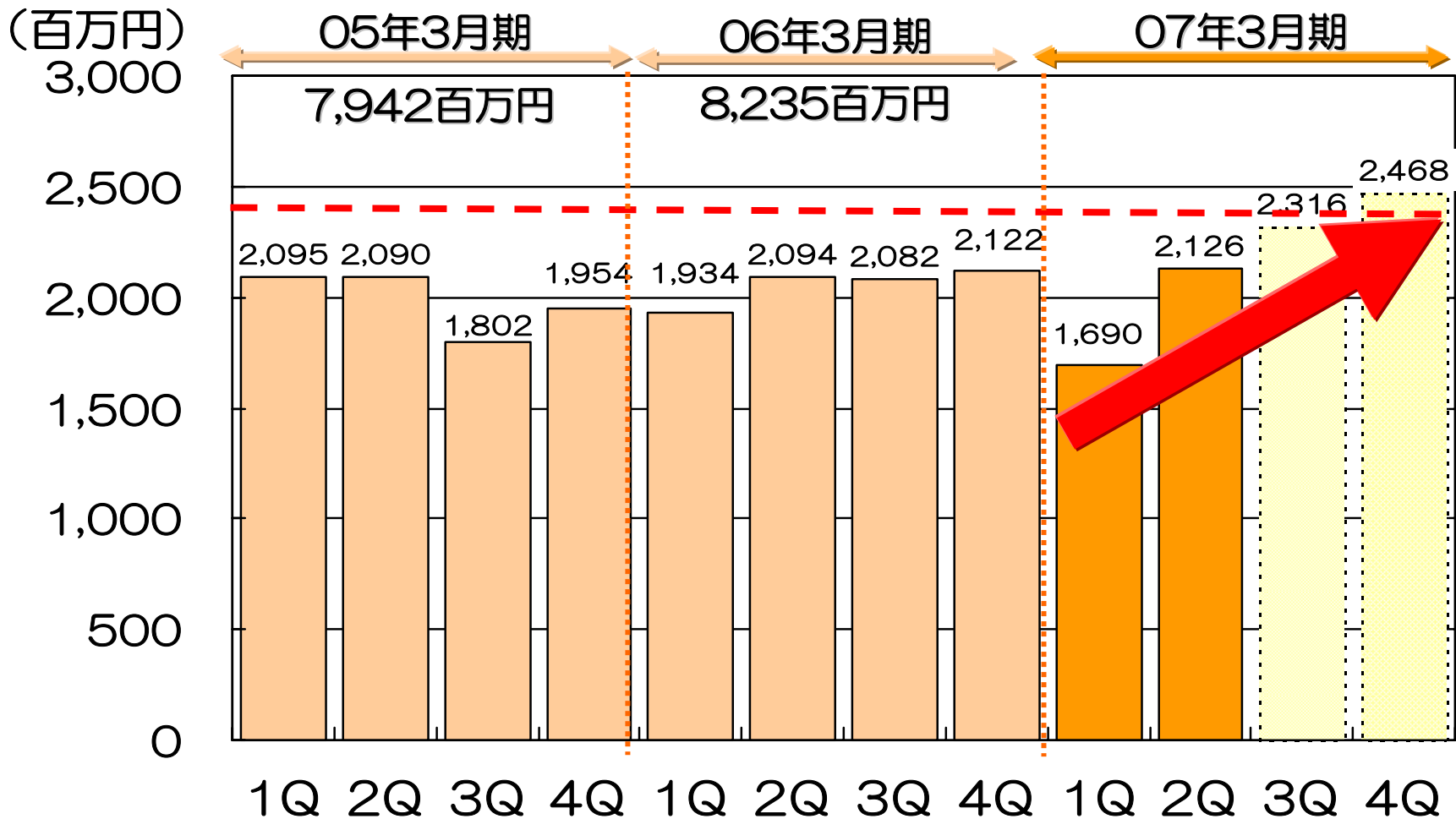
- ・LCD用は、在庫調整の影響で20%の減収。
- ・半導体用は15%の増収。半期ベースで過去最高。





# 感光性材料事業 売上高推移

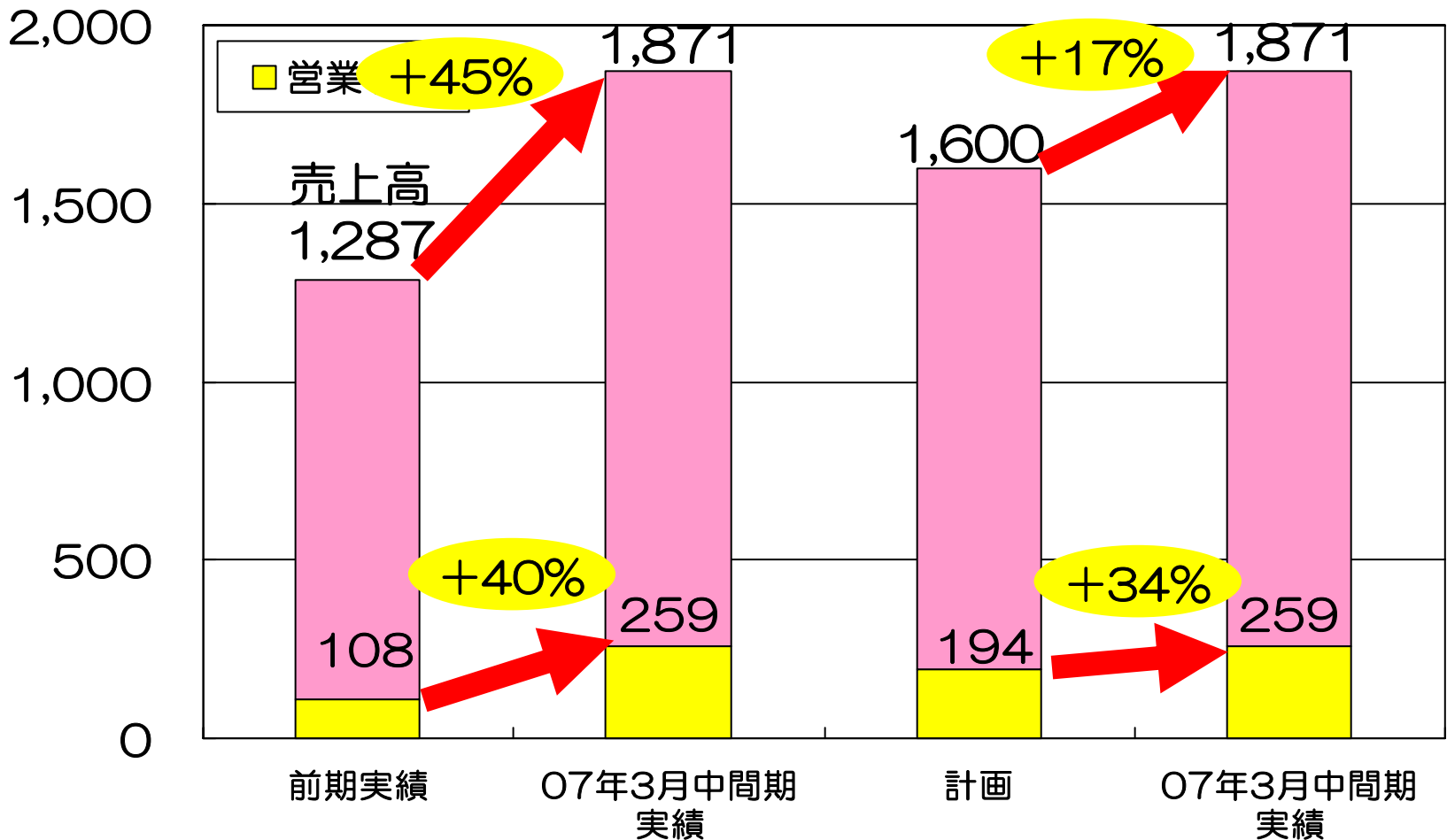
- ・ 1Qは、LCDパネルの在庫調整で大きく落ち込む。
- ・ 2Qは回復。過去最高の四半期売上を記録。



# ■ 化成品事業 売上高・営業利益

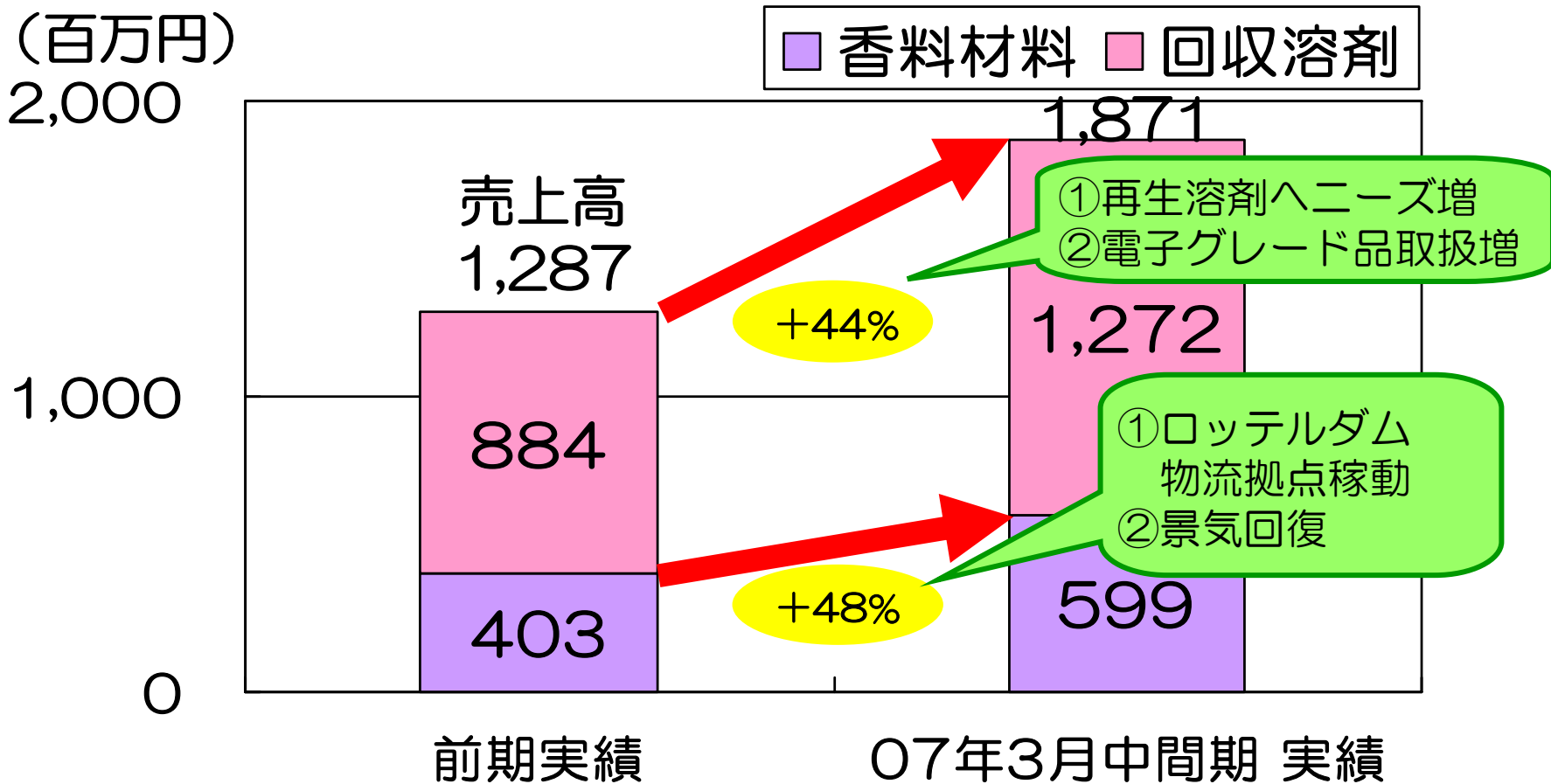
・ 化成品事業は大幅に増収増益。前期比・計画比ともに大きく上回る。

(百万円)



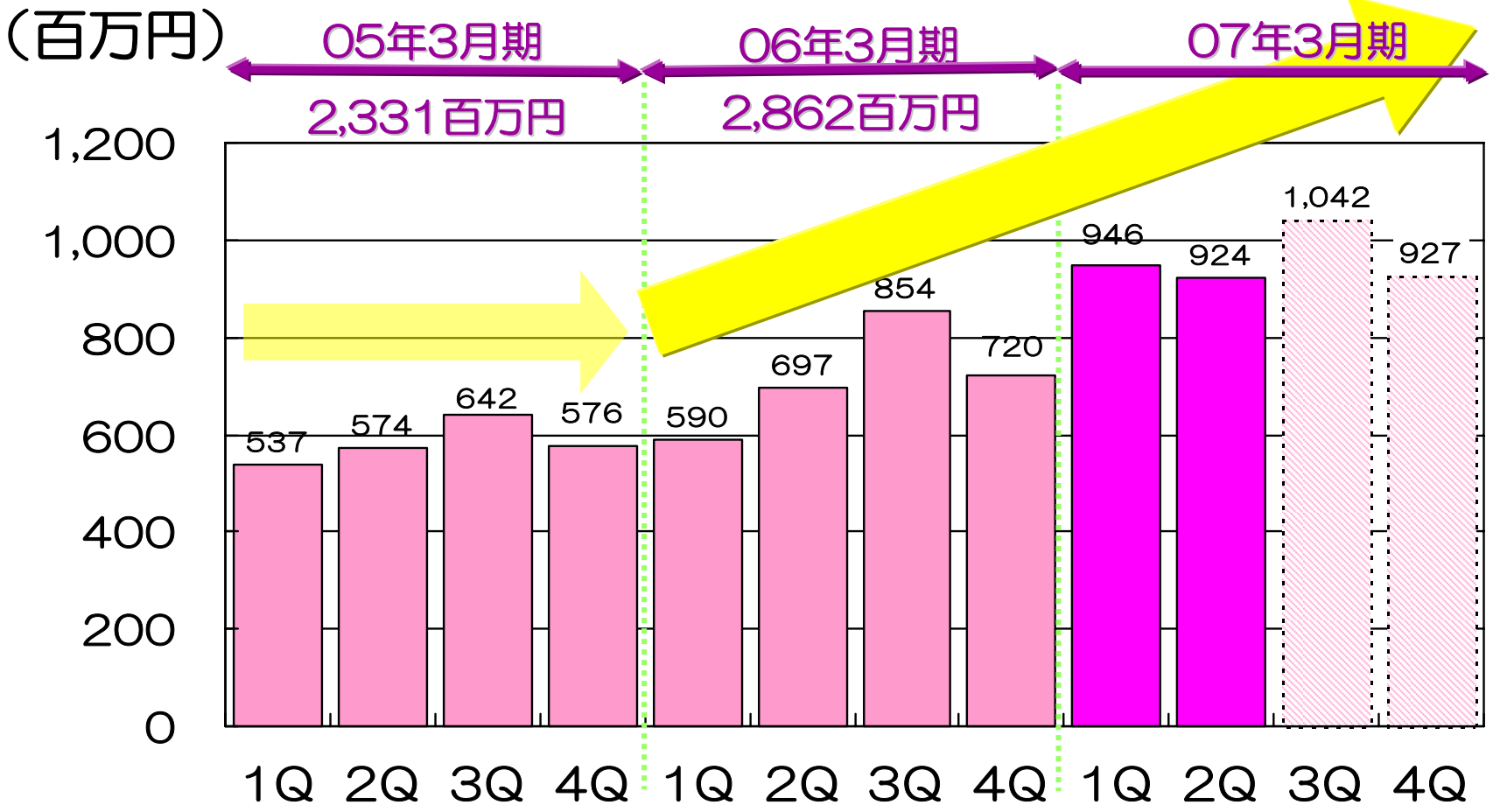
# 化成品事業 用途別売上高

- ・ 回収溶剤は、原油高による再生溶剤へのニーズの高まりと電子グレード品の取扱い増加などで大幅増収。
- ・ 香料は、欧州を中心に需要増加。ロッテルダム物流拠点新設が寄与。



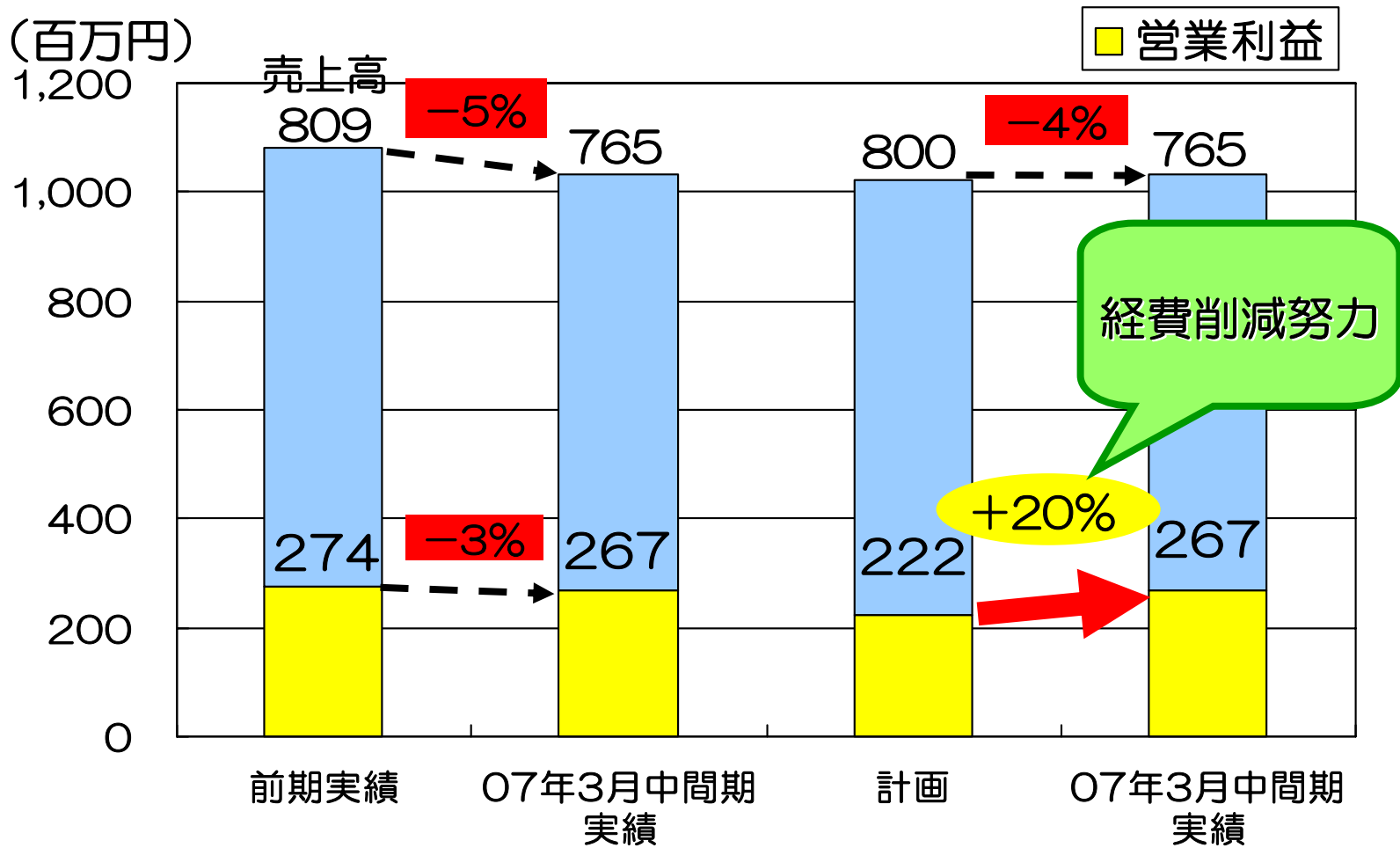
# ■ 化成品事業 売上高推移

・ 化成品事業強化を開始し、前期から成長が加速。成長の柱へ。



## ロジスティック事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は微減であるが、高稼働率続く。
- ・ 利益面は経費削減に努め、計画比では増益。



## ■ 全社 損益計算書

- ・ 売上原価は、減価償却費、原材料費・燃料費等が増加。
- ・ 営業外収益は、研究開発に対する補助金を計上。

科 目 (百万円)	2006年 3月中間期	2007年 3月中間期	対前年比	
			増減額	%
売上高	6,126	6,453	+326	+5%
売上原価	4,539	5,095	+555	+12%
売上総利益	1,587	1,358	△229	△14%
販管費	928	914	△13	△1%
営業利益	658	443	△215	△32%
営業外収益	39	106	+67	+172%
営業外費用	126	108	△18	△14%
経常利益	570	441	△129	△22%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	14	4	△10	△69%
税引前当期純利益	556	436	△119	△21%
税金費用	201	154	△47	△23%
中間純利益	354	282	△72	△20%

経費  
削減  
努力

金利  
削減  
努力

## ■ 全社 貸借対照表

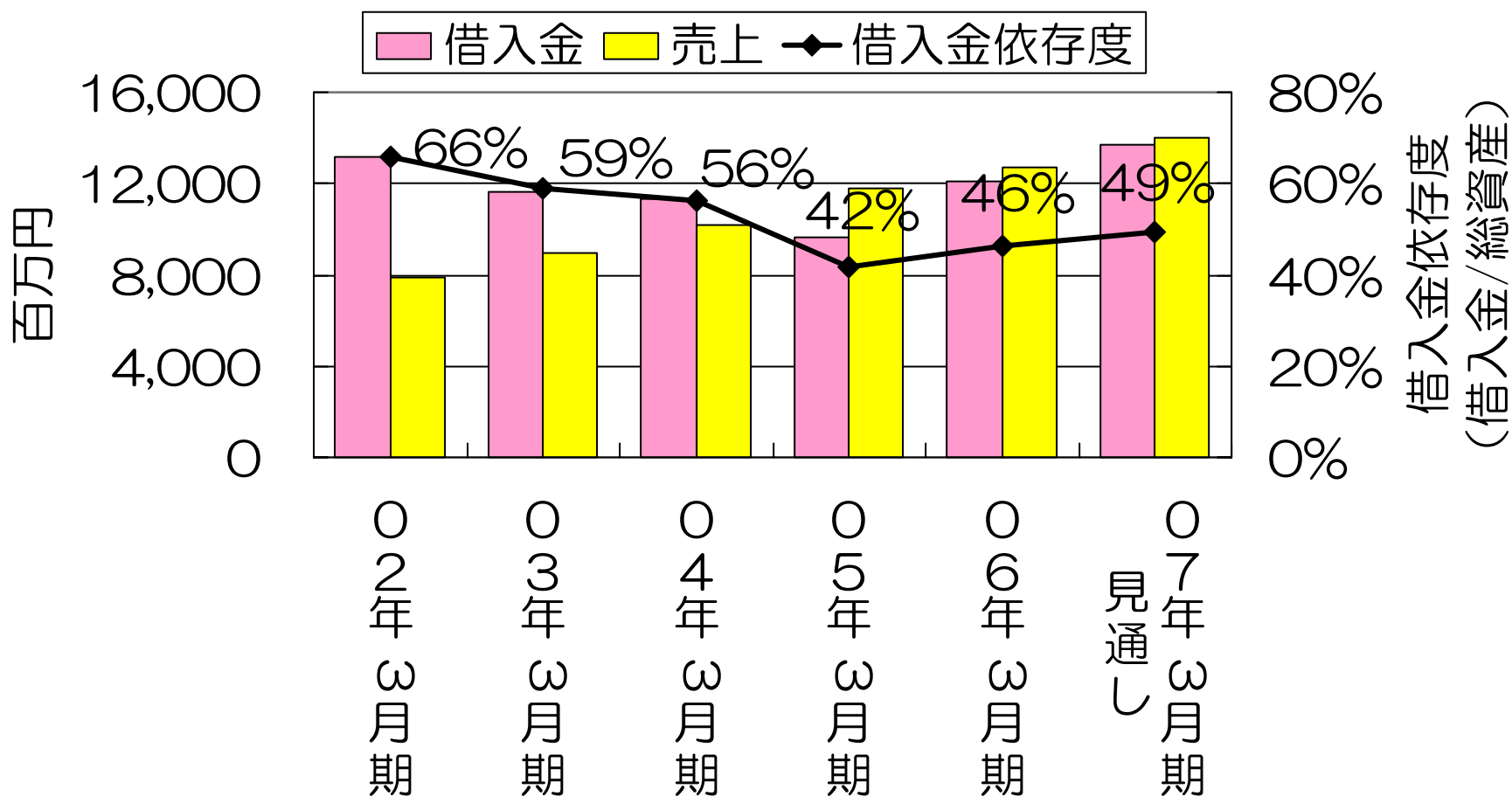
- ・ 売上高増加にともない「売上債権」「棚卸資産」が増加。
- ・ 増産対応のため、有形固定資産が増加。
- ・ 設備資金や運転資金増加のため「借入金」が増加。

科 目 (百万円)	2006年 3月期	2007年 3月中間期	対前年比	
			増減額	%
流動資産	9,144	9,981	+837	+ 9%
現金預金	1,589	1,314	△274	△17%
売上債権	2,889	3,425	+535	+18%
棚卸資産	4,345	4,923	+577	+13%
その他	319	318	△ 1	△ 0%
固定資産	16,941	17,823	+882	+ 5%
有形固定資産	15,801	16,665	+864	+5%
無形固定資産	158	187	+ 29	+18%
投資その他の資産	982	969	△ 12	△ 1%
資産合計	26,085	27,804	+1,719	+ 6%
流動負債	11,616	12,729	+1,113	+ 9%
仕入債務	2,208	2,124	△ 83	△ 3%
短期借入金	6,864	8,060	+1,195	+17%
その他	2,543	2,544	+ 1	+ 0%
固定負債	6,242	6,717	+474	+ 7%
長期借入金	5,212	5,669	+456	+ 8%
その他	1,029	1,047	+17	+ 1%
負債合計	17,859	19,447	+1,587	+ 8%
純資産合計	8,226	8,357	+131	+ 1%
負債及び純資産合計	26,085	27,804	+1,719	+ 6%

中間期末銀行休日のため受取手形が増加

## 借入金の推移

- 借入金は売上以下
- 借入金依存度は微増傾向





# ■ 全社 キャッシュフロー計算書

- ・ 「税引前中間純利益」+「減価償却費」は前年比で上回っているものの、「売上債権」「たな卸資産」の増加で「営業キャッシュフロー」はマイナス。
- ・ 設備投資資金の支払いを借入金で対応。

科 目 (百万円)	2006年 3月中間期	2007年 3月中間期
営業活動によるCF	99	△ 17
税引前中間純利益	556	436
減価償却費	1339	1445
売上債権の増減額	△ 372	△ 535
たな卸資産の増減額	△ 283	△ 577
仕入債務の増減額	△ 83	△ 83
その他	△ 502	△ 267
投資活動によるCF	△ 1,739	△ 1,811
財務活動によるCF	1,864	1,555
現金及び現金同等物の増減	225	△ 272
現金及び現金同等物の期末残高	893	793

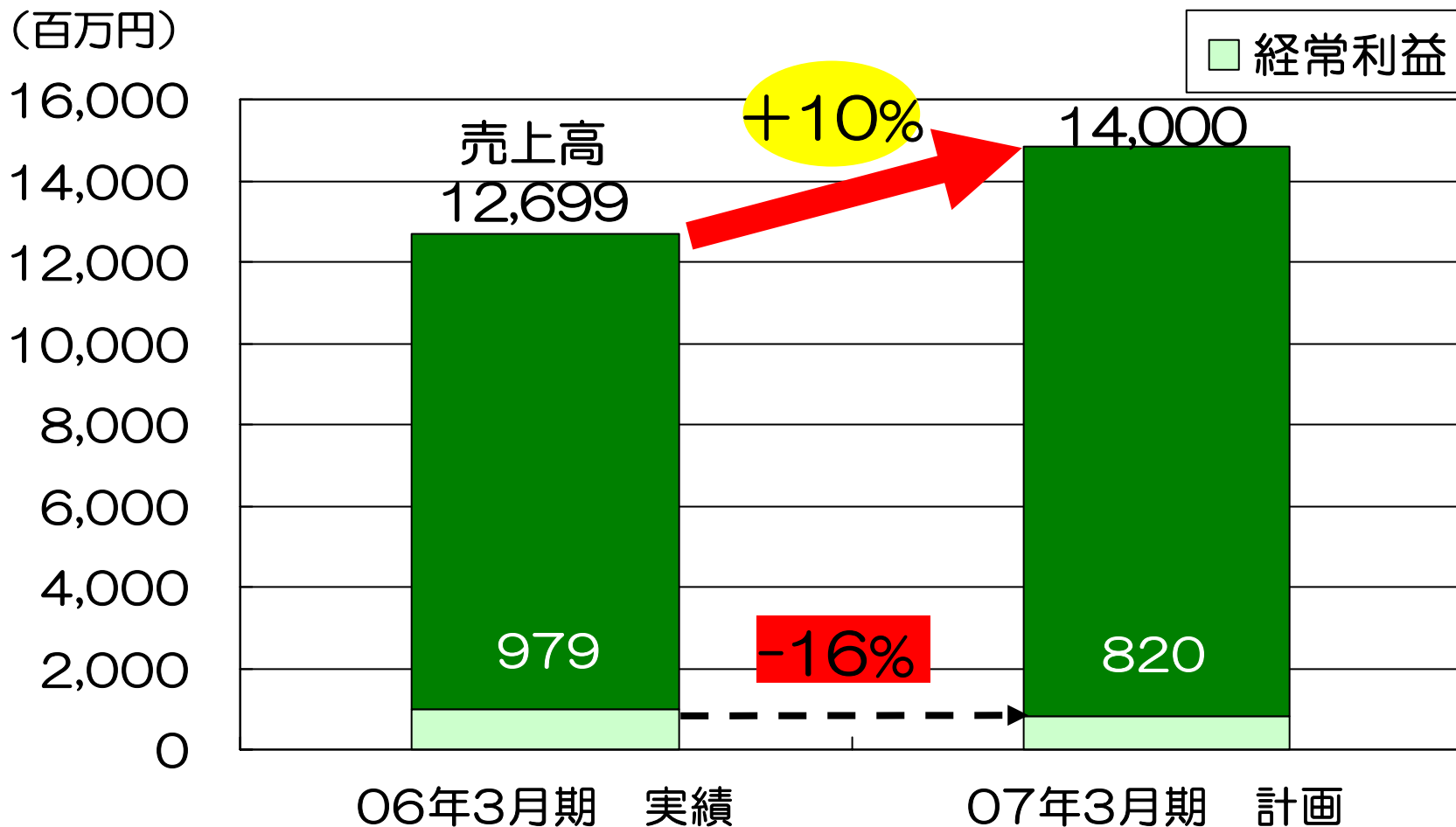
## 2. 2007年3月期 通期見通し

## ■ 2007年3月期 通期見通しのポイント

- ・ **全社ベースでは、売上/利益にほぼ変更なし。売上構成は変動。**
  - 通期で、化成品事業の成長が全社をリカバー。
  - 下期には、感光性材料事業も期首計画レベルを回復。
- ・ **原材料・燃料費高・償却費増により利益面にリスクあり。**
  - 生産性向上と拡大による原価低減に注力。

## ■ 全社 売上高・経常利益

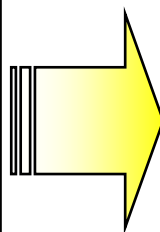
- ・ 売上は、前年比10%の増収を計画
- ・ 利益は、2007年3月期まで高水準の設備投資による減価償却費増加の影響を受けるため、16%の減益を計画



# 07年3月期 通期見通し

- ・ 会社全体では、当初計画と比較して微調整。
- ・ セグメント別では感光性材料はマイナス、化成品は大幅にプラス。

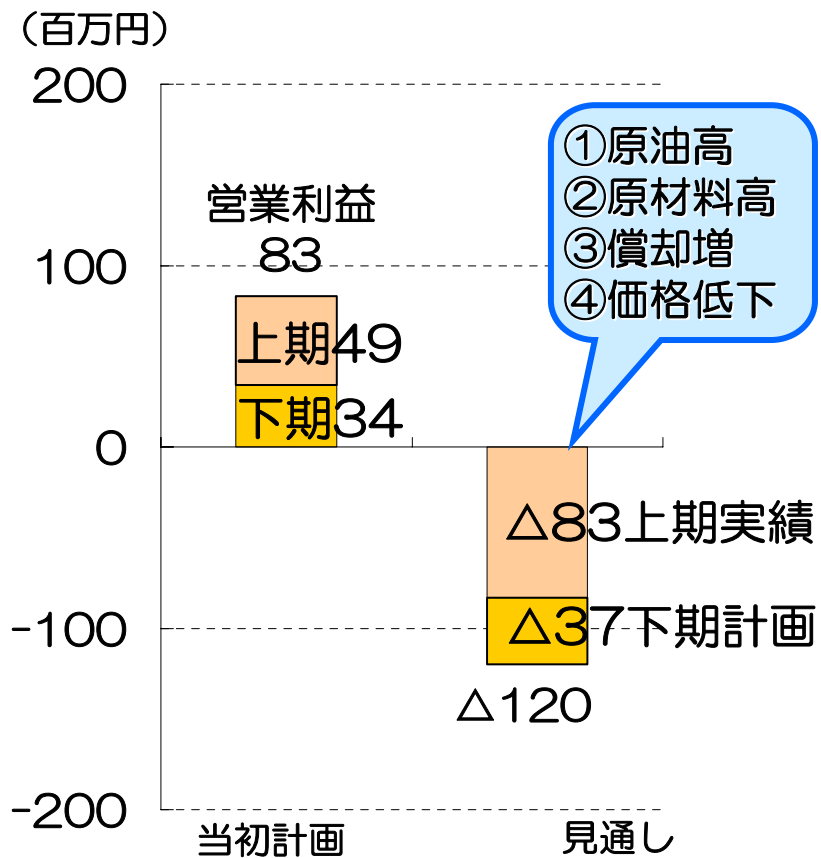
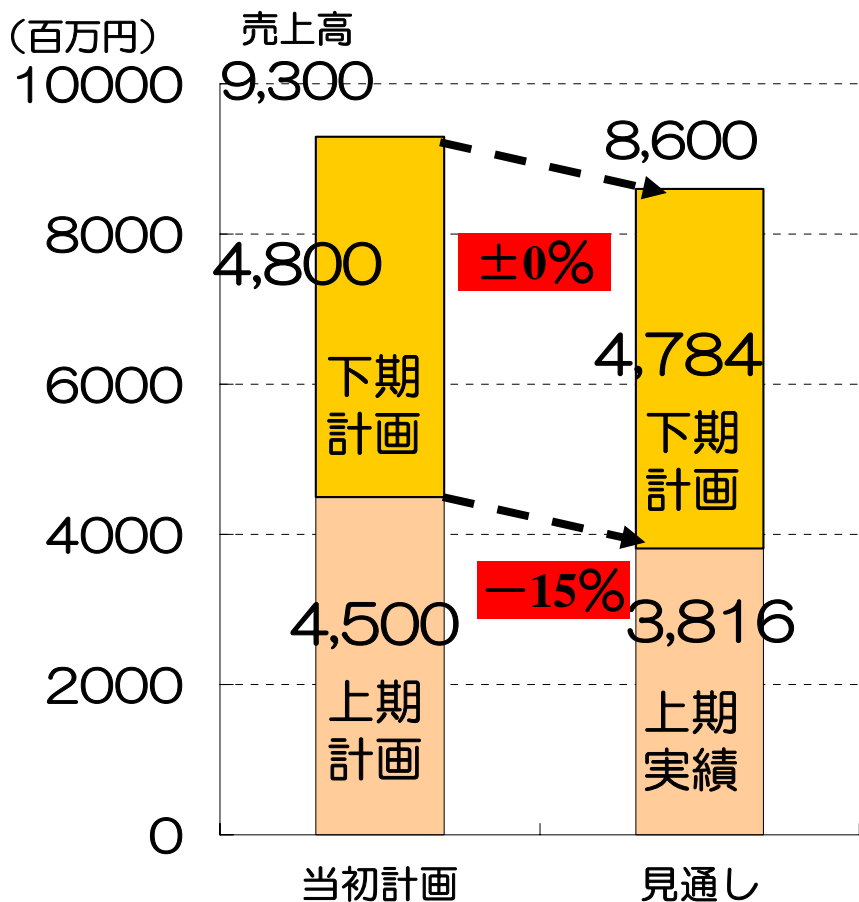
科目 (百万円)	2006年 3月期 実績	2007年 3月期 当初計画
売上高	12,699	14,200
感光性材料	8,235	9,300
化成品	2,862	3,280
ロジスティック	1,601	1,620
営業利益	1,149	888
感光性材料	361	83
化成品	262	400
ロジスティック	526	405
経常利益	979	820
当期純利益	642	470



2007年 3月期 計画見直し	当初計画から の増減額	%
14,000	△200	△1%
8,600	△700	△8%
3,840	+560	+17%
1,560	△60	△4%
900	+12	+1%
△ 120	△203	-
530	+130	+33%
490	+85	+21%
820	0	
470	0	

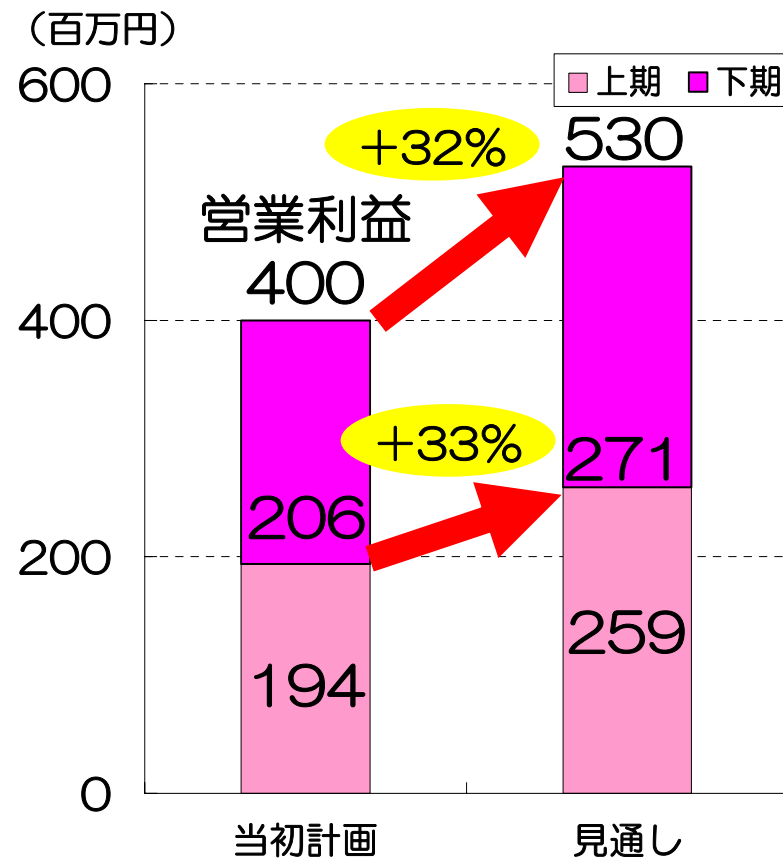
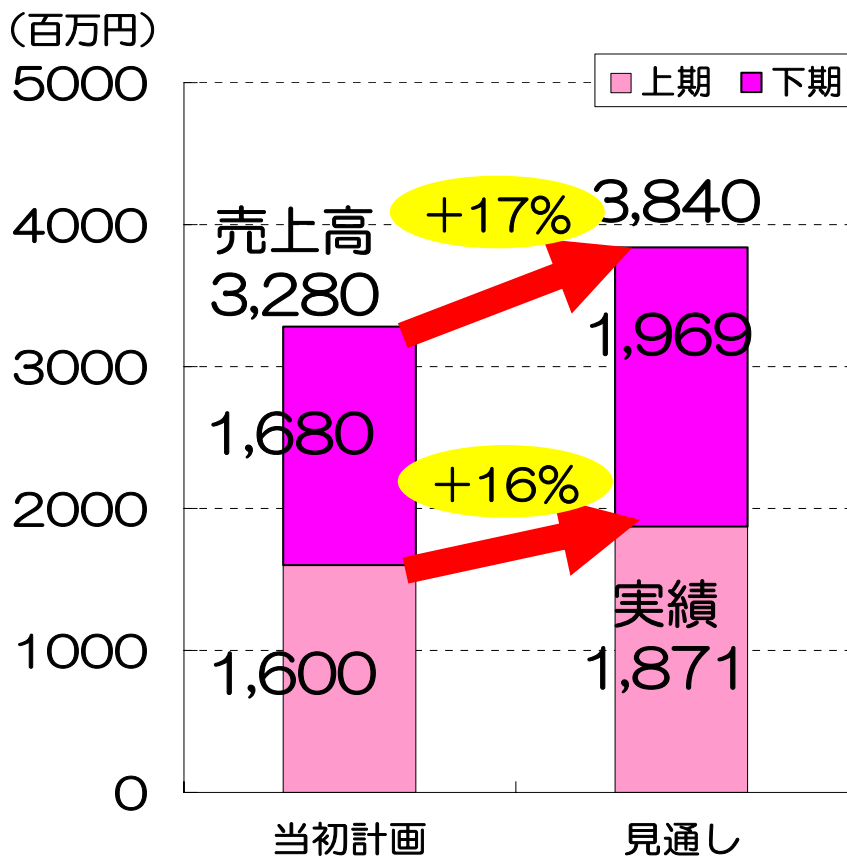
## 感光性材料事業 通期見通し

- ・ 下期売上高は半導体向けの好調を見込みほぼ計画通り。上期のマイナスはカバーできず。
- ・ 下期利益は、生産性向上に注力するが、原価増など費用負担が高水準で推移。



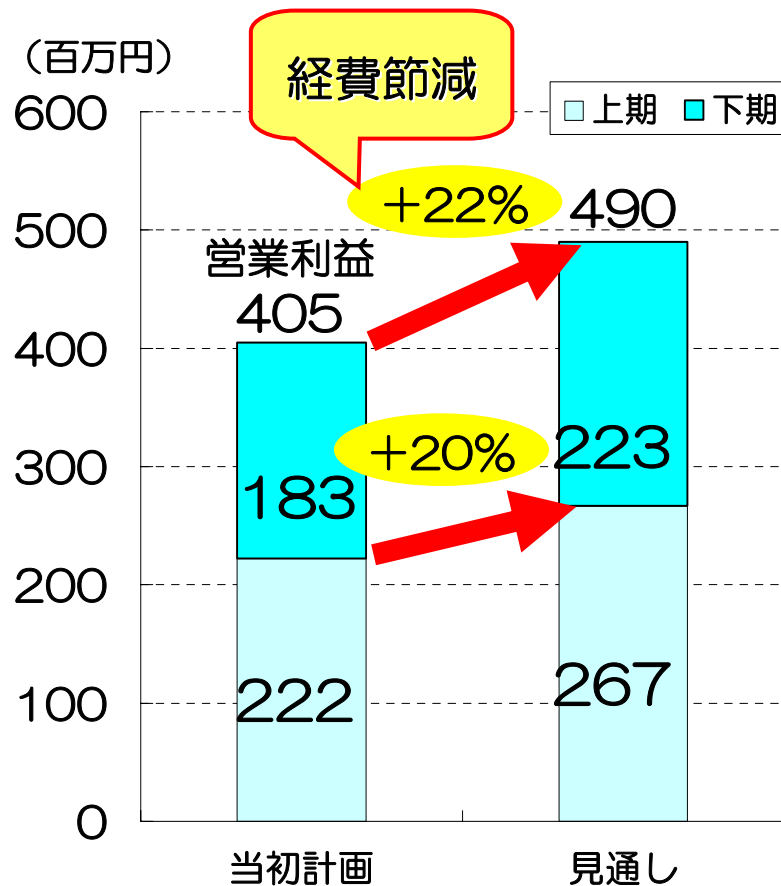
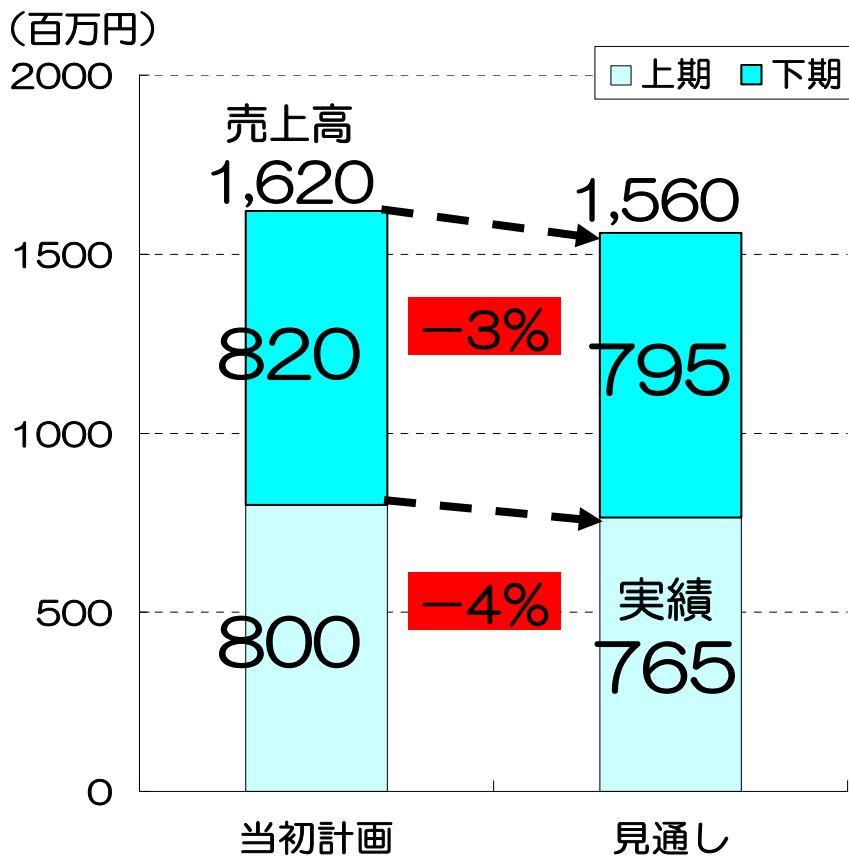
## ■ 化成品事業 通期見通し

- ・ 下期売上高は、溶剤リサイクル、香料ともに成長キープ。
- ・ 下期営業利益は、原材料高騰の影響を見込むが、増収効果で増額。



# ロジスティック事業 通期見通し

- ・ 下期売上高は、高稼働率が続き、高水準をキープ。
- ・ 下期営業利益は、上期同様経費削減に努め、増額見込み。





# ■ 設備投資と減価償却費について

- ・ 設備投資は当初計画より上回る見込み
- ・ 増額要因として、増産対応、環境関連投資など。
- ・ 収益への影響は、下期修正予算に計上済み。

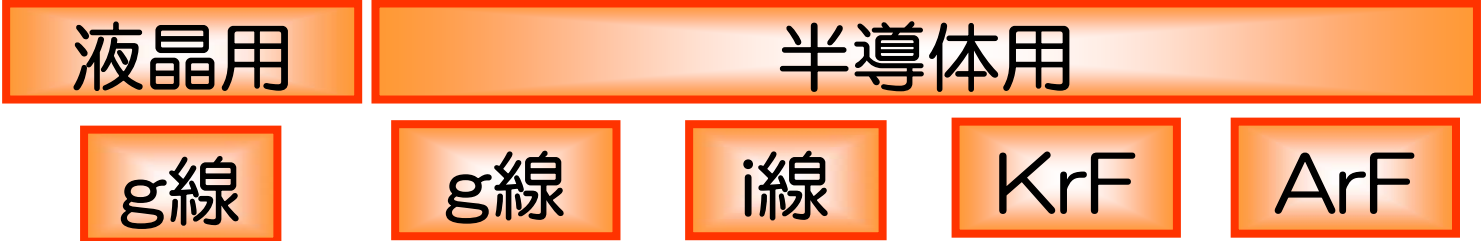
	当初計画		今期(57期)見込み
設備投資額	1,600	+900 +55%増 →	2,500
減価償却費	2,000	+150 +8%増 →	2,150

(百万円)

# 3 . 今後の展望

# 感光性材料事業 展望

- ・ 液晶・半導体市場は着実に成長。
- ・ 市場拡大に対応した設備投資はほぼ一巡。生産性向上による原価低減と拡販に注力。
- ・ 将来へ向けた製品開発強化



レジスト市場は2008年まで年約10%成長

市場

対策

液晶市場	g線市場	i線市場	KrF市場	ArF市場
<ul style="list-style-type: none"> <li>・需要量は5月の落ち込み以降、着実に回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯配線</li> <li>・携帯電話</li> <li>・PCB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VISTA対応</li> <li>・DRAM前年同月比40%増</li> <li>・MPU 4%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MPU</li> <li>・GBメモリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液浸対応</li> <li>・商業化</li> </ul>
<p><b>対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増産・拡販</li> <li>・利益体質強化</li> <li>・高精細開発</li> </ul>	<p><b>対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産効率性向上</li> </ul>	<p><b>対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産効率性向上</li> </ul>	<p><b>対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高感度対応</li> <li>・分子設計</li> </ul>	<p><b>対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリマー・光酸発生材設計</li> </ul>

## ■ エネルギー事業 展望

- ・ 量産品の販売を開始
- ・ 商業化に向け、ニーズに応じたきめ細やかな研究開発を加速

### 電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体の認知度UP
- ・ 電解液・イオン液体を用いたキャパシタ・Liイオン2次電池の用途は徐々に拡大。
- ・ 本格的なマーケット拡大はやや時間を要する。

市場

キャパシタ

キャパシタ

- ・ 協業体制強化

対策

- ・ 量産品販売開始
- ・ キャパシタとしての製品特性優位性を確認

Liイオン  
2次電池

Li電池

- ・ Li電池発火問題
- ・ メタル/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の需要拡大

対策

- ・ 品質/性能優位性アピール
- ・ CEATEC発表

色素増感型  
太陽電池

太陽電池市場

- ・ 市場サイズ小
- ・ 技術ハードル高い
- ・ 2008年商業化目指す

対策

- ・ イオン液体開発強化

対策

## ■ グリーンケミカル事業～溶剤リサイクル 展望

### ・ ニーズ拡大を背景に事業展開を大幅に加速

- 原油高による溶剤コスト圧縮ニーズ
- 日本の景気回復
- VOC排出規制など環境関連法規強化
- CO<sub>2</sub>排出規制も視野



溶剤回収ニーズ  
急拡大

#### 印刷・粘着業界

##### 印刷・粘着業界

- 景気回復

##### 対策

- 業界団体と協力強化

#### 電子材料業界

##### デジタル機器業界

- 電子機器生産拡大
- 部材コスト圧縮要請

##### 対策

- 感光材/エネルギーとの協業強化

#### 他製造業

##### 他製造業

- VOC規制施行（2006）

##### 対策

- ソリューションビジネス展開

市場

対策

- 市川工場内にタンク増設
- ロジスティックとの協業強化
- 回収-精製-合成-輸送のワンストップアウトソーシングサービス
- 回収技術の確立、装置会社との協業強化

来期以降売上に寄与

## ■ 香料材料事業 展望

- ・ 製品の技術的・品質優位性を確立
- ・ 事業は着実に拡大

### 市場

- ・ お客様香料企業（国内・海外）好調
- ・ 低コスト・高付加価値製品が望まれている

#### 国内

- 国内
- ・ 協業体制強化
  - ・ Flavor分野が伸長
- 対策
- ・ Fragrance分野を強化

#### 海外

- 海外
- ・ BRICs市場拡大
  - ・ 世界主要香料メーカー
  - ・ Fragrance分野が伸長
- 対策
- ・ グローバル企業への拡販強化
  - ・ Flavor分野を強化

### 対策

- ・ 製品ポートフォリオの充実、新製品開発
- ・ 製造要素技術の更なる充実
- ・ 販売数量拡大と生産効率性向上



価格競争力強化

## ■ ロジスティック事業 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大
- ・ タンク容量増加により売上拡大

### 市場

- ・ 需要は引続き絶好調
  - ・ 日本の景気回復→中国品の輸入増加
  - ・ 国内外荷動き好調
- ⇒ タンク空きがなく  
荷動き活発化

### 対策

- ・ 下期タンク4基増設計画
  - ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
  - ・ グリーンケミカルとの協業強化により、保管—精製—合成—輸送のワンストップアウトソーシングサービスを展開
- ⇒ すでに完売  
来期以降売上寄与

## ■利益 展望

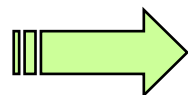
- ・ 減価償却費など固定費増加を事業ポートフォリオと増産でカバー
- ・ 増収効果も加わり、今期を底に、来期以降増益基調へ

### 現状

- ・ 減価償却費など固定費が増加し、利益を圧迫

### 対策

- ・ 減価償却費は今期がピーク。来期は200百万円減少見込み
- ・ 生産性向上や工程見直しなどに取組み中

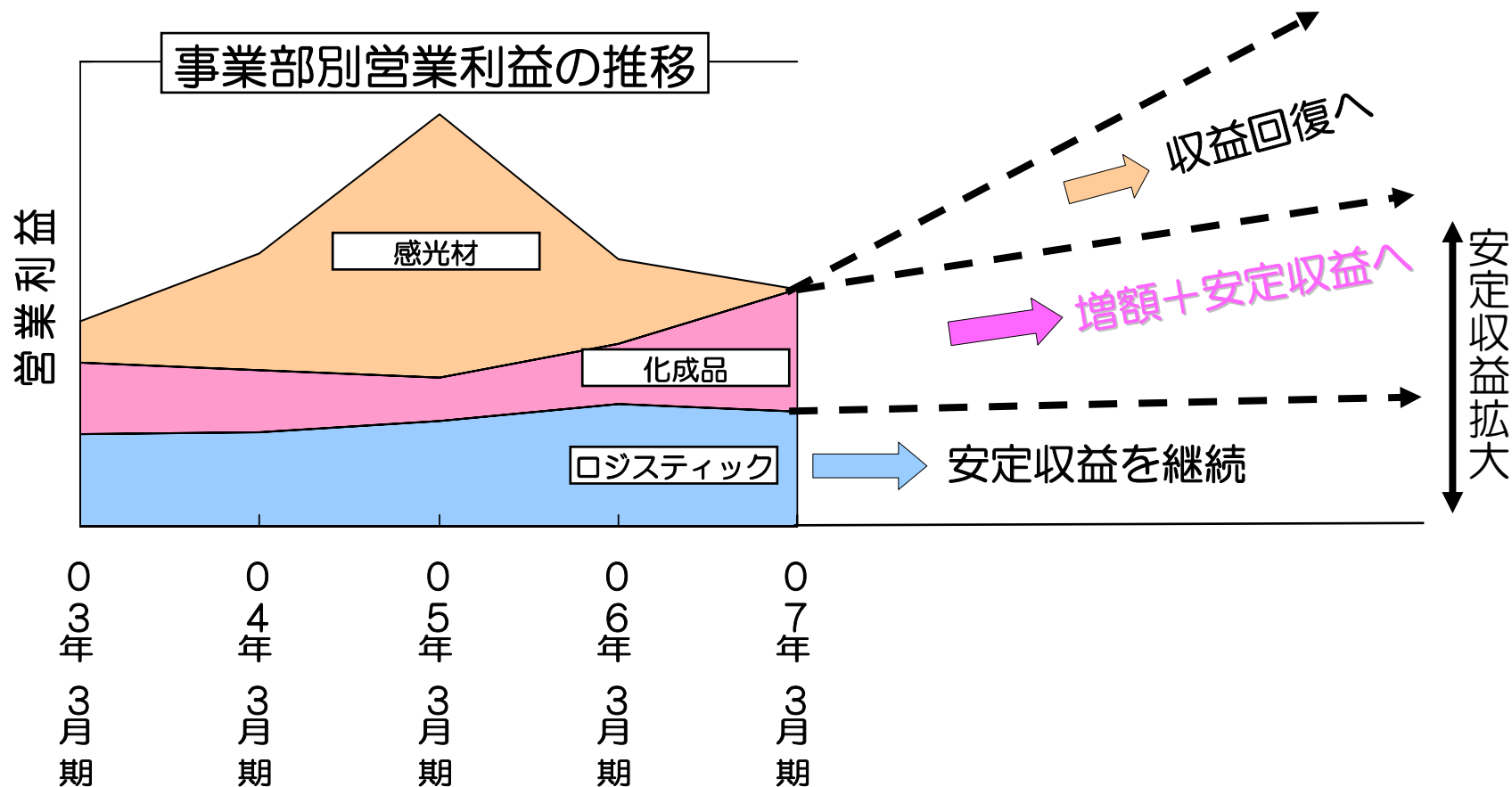


来期以降、利益に貢献



## 将来展望

- ・ 化成品事業部門が、感光材部門のカウンターバランスとして収益の柱に成長
- ・ 感光材事業は、緩やかに液晶の調整から回復。生産性向上を図り収益回復へ





# 東洋合成工業

## (ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。